

2. 地域連携における課題

大学における多様な基礎・応用研究の推進と地域連携の両立

大学において行われている多様な基礎研究・応用研究の成果に基づいて地域連携・協働を行うことが必要である。さらに、地域連携・協働の成果が大学における知の集積につながることも望まれる。大学における業務が飛躍的に増える中でこれらを実現するためには、地域と大学両者に精通したコーディネータを含む、サポートの仕組みを構築することが重要である。

地域ゼロカーボン達成に向けた多様な取り組みの有機的連携

地域ゼロカーボンは喫緊の課題であり、今後さらにスピード感を持って取り組む必要がある。そのためには、教育（人材育成）、イノベーション、国際連携・協調等を通じてゼロカーボンに取り組む関係者が当事者意識を共有し、互いの取り組みを有機的に連携させていく必要がある。

ゼロカーボンへの取り組みを動機づける仕組みの構築

地域ゼロカーボンを達成するには、地域で活動する企業の参画が必要不可欠である。少しでも多くの企業に大学と連携した取り組みを行ってもらうためには、取り組みむことが企業の負担にならないようにする仕組みを地域の中で作り、周知していく必要がある。

3. その他特徴的な取り組み

環境配慮

- 施設の使用状況に応じ課金するスペースチャージ制度
- 課金からの財源より、「照明設備のLED化」「高効率空調への更新」等、省エネルギー化整備

☆LED照明化や空調設備更新による3年間の成果

	照明設備 LED化実績	高効率空調の 更新実績
2019年	2,242台	46台
2020年	475台	13台
2021年	857台	77台

環境広報活動

- 「環境報告書」の作成など新たな環境的な視点から環境広報活動を展開
- 第15回、21回、24回の「環境コミュニケーション大賞(環境報告書部門)」において『環境配慮促進法特定事業者賞』を受賞

省コスト効果
による費用
▲4.7百万円

温室効果ガス
▲125.2 t・CO2






4. 地域ゼロカーボンワーキンググループに期待すること、幹事機関・事務局へのリクエスト

地域ゼロカーボンの実現に向け、大学が地（知）の拠点として地域と協働し成果をあげられるよう、先行事例や種々の課題を共有・議論し、さらなる連携・協働が生まれる場となることを期待。

5. 地域ゼロカーボンワーキンググループへの意気込み・積極的な一言

本WGでの議論・情報をもとに、地域のステークホルダーと協働してゼロカーボンに取り組んでいきたい。